

# 中期経営計画「LIVE計画」(2018-2020年)における「2020年サステナビリティ重要課題・目標」と2018年実績

## <総括>

当社が2018年に特定した「サステナビリティ重要課題2020」において、各課題の解決にむけた活動を推進しました。

重要課題への取り組みにあたり、PDCAで進捗を管理しております。総じて、目標達成に向けて各活動が推進できていることが確認できました。特に海外グループ会社と連携を密にしたグローバルでの活動が進み、今後も更なる取り組みを進めてまいります。

## <SDGs(持続可能な開発目標)>



## LIVE計画、連結業績目標

	2020年目標	
		売上比
売上高	4,000億円	-
営業利益	400億円	10.0%
親会社の所有者に帰属する当期利益	280億円	7.0%
ROE	12%水準	-

※2018年より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用しています。

**評価基準**  
達成:2020年目標に対して達成、推進中:2020年目標達成に向け推進中

中核主題	重要課題 (貢献するSDGs)	2020年目標に向けた 取り組みの方向性	2020年目標およびKPI	2018年実績	関連情報 ページ	評価	
						C(評価)	A(改善)
E 環境	① サステナブルな地球環境のための取り組み推進 6 7 9 12 13 14 15 17	持続可能な社会と事業の発展の両立を目指して、生活者・地域社会とともに、地球環境保全活動を積極的に推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営マネジメントの推進</li> <li>1)環境目標「Eco Vision 2020」の推進・達成(グローバル)</li> <li>2)家庭での使用段階も含む製品ライフサイクル全体で環境負荷を最小化する「新環境目標2030」の制定(グローバル)</li> <li>3)化学物質の適正使用・管理の推進(グローバル)</li> <li>4)トップ環境監査・サステナビリティ推進会議<sup>※1</sup>における環境マネジメントの進捗状況の確認・見直しの実施(国内)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1)環境目標「Eco Vision 2020」に関連した活動を展開し、目標達成に向けて着実に推進</li> <li>2)新環境目標「LION Eco Challenge 2050」制定に向け海外グループ会社も含め協議、課題を共有化</li> <li>3)化学物質の適正使用・管理徹底</li> <li>4)-①取締役による、トップ環境監査を実施: 小田原工場、ライオンケミカル株オレオケミカル事業所 ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ株四日市事業所</li> <li>4)-②環境保全推進委員会にて、環境マネジメントの進捗状況を確認</li> </ul>	P33-40	1)推進中	1)環境目標「Eco Vision 2020」達成に向けた活動を継続 2)2019年5月、取締役会承認のもと、新環境目標「LION Eco Challenge 2050」を制定し、取り組みを進める 3)化学物質の適正使用・管理を継続推進 4)取締役によるトップ環境監査の継続および、「サステナビリティ推進会議」による環境マネジメントの継続
						2)推進中	
S 労働慣行	② 人権の尊重 5 8 10 16 17	人権を尊重するグループ体制を構築する	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ理念に基づく、人権尊重に向けた取り組みの強化</li> <li>1)オールライオンの人権方針の策定(グローバル)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1)国内・海外のライオングループを対象に、「ライオン人権方針」を制定、webサイトで開示 周知と浸透にむけ現地語に翻訳(英、中国、韓国、タイ、マレー語)</li> </ul>	P41-42	達成	1)海外グループ会社の人権に関する取り組み状況の確認と周知を継続(グローバル) 社内浸透に向けて、ライオンの人権の取り組みに関するe-ラーニング研修を実施(国内)
			<ul style="list-style-type: none"> <li>社内外通報・相談窓口の拡充</li> <li>1)心のホットラインの認知率100%(国内)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1)心のホットライン認知率:98.5%。「コンプライアンス意識調査アンケート」および、「コンプライアンス教育」を通じて社内に周知</li> </ul>		推進中	1)コンプライアンス教育を通じて、認知拡大をはかる 海外グループ会社のホットライン機能を強化
	③ ダイバーシティの推進 5 8 10	多様な人材活用により、創造的な事業活動を拡大する	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性マネジメント層の活躍推進</li> <li>1)次世代マネジメントを牽引する女性従業員の育成(グローバル)</li> <li>2)女性マネジメント層比率 20%(国内)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1)「次世代経営層人材育成研修」への女性出席比率が向上 2017年:38.6%→2018年:47.6%</li> <li>2)女性マネジメント層比率:15.8%</li> </ul>	P43-47	1)推進中	1)19年「次世代経営層人材育成研修」を実施
			<ul style="list-style-type: none"> <li>「生産性の高い仕事と生活の調和」に向けたスマートワーク<sup>※2</sup>の実現</li> <li>1)従業員意識行動調査の実施(国内)</li> <li>2)有給休暇取得率 70%(国内)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1)国内グループ会社を含む全従業員に「ライオン意識・行動に関するアンケート」を実施。「やりがいがある」の回答率:61.9%</li> <li>2)有給休暇取得率:60.3%</li> </ul>		2)推進中	2)女性が長期的に活躍できる施策を継続
④ ワーク・ライフ・バランスの推進 3 8	働き方改革により、従業員の躍動感を創出する	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルステークホルダーの期待に応える多様な豊かな思考を持つ人材育成により、人的ダイナミズムを創出する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学び、行動する人材輩出のための人材開発体系の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手従業員と経営陣が直接議論を重ね、全社の課題解決にむけた新たな提案に結びつける「ReDesign FORUM」を開催(ReDesign 活動第1期)</li> <li>若手のマーケティング力強化を目的とするマーケティング学習プログラムを実施、適正人材を発掘</li> </ul>	P43-47	1)推進中	1)働きがいに繋がる施策の一環としてプログラムを実装
			<ul style="list-style-type: none"> <li>2)有給休暇取得率:60.3%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2)有給休暇の計画付与日数を3日から5日間に増加</li> </ul>		2)推進中	2)有給休暇の計画付与日数を3日から5日間に増加
⑤ 人材育成 8 5 10	グローバルステークホルダーの期待に応える多様な豊かな思考を持つ人材育成により、人的ダイナミズムを創出する	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学び、行動する人材輩出のための人材開発体系の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学び、行動する人材輩出のための人材開発体系の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手従業員と経営陣が直接議論を重ね、全社の課題解決にむけた新たな提案に結びつける「ReDesign FORUM」を開催(ReDesign 活動第1期)</li> <li>若手のマーケティング力強化を目的とするマーケティング学習プログラムを実施、適正人材を発掘</li> </ul>	P43-47	推進中	<ul style="list-style-type: none"> <li>ReDesign 活動第2期を開始</li> <li>学びのスタイル変化に対応するため、従来実施していた階層別研修を見直し、意欲ある従業員が主体的に学ぶことができる研修プログラム「ライオン・キャリアアビレッジ」を2019年1月より運用開始(国内)</li> </ul>

※1 2018年までは「環境保全推進委員会」として実施

※2 生産性の向上を目指して、密度の高い仕事を進める働き方

中核主題	重要課題 (貢献するSDGs)	2020年目標に向けた取り組みの方向性	2020年目標およびKPI	2018年実績	関連情報ページ	評価	次のアクション
------	-----------------	---------------------	---------------	---------	---------	----	---------

S	労働慣行 公正な事業慣行 消費者課題 コミュニティ参画	6 労働安全管理体制の充実 3 8	グループ全体の労働安全衛生マネジメント体制を強化・徹底する	・労働安全・設備安全の徹底 重大事故0件・重大災害0件(グローバル)	・安全衛生防災会議による安全活動のPDCA推進(年2回実施) 重大事故0件・重大災害0件	P43-47	推進中	安全衛生防災会議を年2回実施し、PDCA推進を継続
		7 健康経営の強化 3 8 17	次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーに相応しいライオン流健康経営モデルを構築する	・従業員のヘルスケア習慣定着に向けた支援施策の拡充 1)健康診断受診率100%(国内) 2)歯科健診受診率100%(国内) 3)年代別がん検診受診率100%(国内)	・従業員の健康意識の向上、健康行動の習慣化をサポートする取り組みを展開 1)健康診断受診率:100% 2)歯科健診受診率:93%。歯科衛生士による保健指導を実施 ・予防歯科実践の促進策として、歯科医による口腔ケア受診の補助金制度を設置 3)年代別がん検診受診率:84%	P43-47	1)推進中 2)推進中 3)推進中	ライオン流健康経営"GENKI"アクションの展開<重点施策> 1.個人別健康管理システムの構築 2.予防歯科習慣の浸透 3.3大がん*対策の強化*肺がん、胃がん、大腸がん 4.禁煙への取り組み
		8 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築 5 6 7 8 10 12 13 14 15 16 17	サプライチェーンで実効性の高いマネジメントを推進する	・先進的でサステナブルなサプライチェーンの整備 1)調達に関するサプライヤーサステナビリティセルフチェックの実施(グローバル) 2)調達に関するサプライヤーサステナビリティセルフチェック実施率100%(国内)	1)韓国ライオンのサプライヤーを対象に、サプライヤーサステナビリティセルフチェックを実施 他国に展開するため「グローバル購買会議」を実施し、CSR調達の必要性を伝達 2)セルフチェック実施率:98%。サプライヤーへの評価結果のフィードバックを実施(年1回実施)	P48-49	1)推進中 2)推進中	1)韓国ライオンでのセルフチェックを継続。対象国の拡大を検討 2)サプライヤーサステナビリティセルフチェックを継続
		9 お客様の信頼と満足の追求 3 10 12	グループ全体でお客様から信頼される企業活動を徹底し、顧客志向経営を進化させる	・サプライチェーンを網羅した信頼性保証体制の強化 ・お客様対応品質強化によるお客様満足度の向上 ・システム構築と管理マネジメント強化による、セキュリティ体制の強靱化	・バリューチェーン全体において品質保証体制を強化することを目的に「信頼性保証部」を設立 海外グループ会社の品質担当者と情報交換(QA会議)を実施 ・VOC**3の多角的分析によるインサイトを発掘し、体験価値創出に繋げるため製品開発部門との情報共有化を推進 ・情報セキュリティ、ソーシャルメディアのリスク、情報管理体制に関するe-ラーニング研修を実施(受講率100%)	P50-54	推進中	・信頼性保証活動を継続的に行うとともに、グループ全体でリスクの低減を目指すQA会議を実施 ・お客様満足度の向上にむけ、顧客志向経営を継続 ・18年実施内容のe-ラーニングを継続 海外グループ会社のシステムやガバナンス、セキュリティ対策状況などを確認し、セルフチェックを推進
		10 健康な生活習慣づくり 3 4 6 12 17	人々の健康寿命の延伸・Well-Beingな毎日を目指して、オーラルヘルスケア・清潔衛生習慣など、健康な生活習慣づくりに貢献する	・事業活動と連携した、予防歯科・手洗い習慣などのヘルスケア習慣定着に向けた活動の実施 ・「地域との共生」・「従業員の参画」・「パートナーシップの強化」を基本とした社会課題解決への貢献	・新しい技術を活用したサービス、顧客体験価値創出に向けた実証実験を開始 ・当社の事業所所在地やゆかりのある地域の幼稚園や保育所、施設などで、オーラルケアと手洗い習慣の普及活動を推進 若手従業員参画のもと、手洗い習慣普及活動を実施 ・アジア各国・地域にて、行政・学会、お得意先様と連携して「Preventive Dentistry 活動」や「手洗い習慣普及活動」を推進	P55-57	推進中	・事業と連携した具体的施策、目標・KPIの検討 ・ライオングループ全体で予防歯科活動を推進・継続 ・新たなステージで行政との連携をはかる(石巻市、坂上市など)

G	組織統治	11 リスクマネジメントの推進	グループ全体のリスクマネジメント体制を強化する	網羅的・総合的なグループ全体のリスク管理推進	・執行役員会でリスクマネジメントの進捗状況を報告～経営に与える重要リスクの発生は無し(年1回実施) ・特に、海外グループ会社の①品質保証体制の整備 ②コンプライアンス体制を構築	P58-60	推進中	・網羅的・総合的にグループ全体のリスク管理を継続推進
		12 コンプライアンスの浸透 5 10 16	グループ全体でコンプライアンス活動の実効性を強化する	・コンプライアンス管理体制の構築 1)企業行動憲章・行動指針の周知拡大(グローバル) 2)コンプライアンスに関する研修受講率100%(国内)	1)企業行動憲章・行動指針を現地語化し、現地従業員に周知(中国、韓国、タイ、マレー語) 2)-①研修受講率:100%。LGBTの研修項目を新規導入し、従業員のコンプライアンス意識を強化 2)-②パート社員を含む全従業員に「コンプライアンス意識調査アンケート(実施率:95%)」とフィードバックを実施	P58-60	1)推進中 2)推進中	1)海外グループ会社の企業行動憲章・行動指針の周知継続 更なるコンプライアンス体制の構築に向け、ホットラインの周知拡大と相談・通報窓口機能を強化 2)「ライオン人権方針」「ライオン贈収賄防止指針」に関するe-ラーニング学習を実施
		13 グループ・ガバナンスの強化 16	グループ全体のガバナンス強化に取り組む	「コーポレート・ガバナンス基本方針」に則したグループ・ガバナンス体制の整備	・「コーポレート・ガバナンス基本方針」に則して、ガバナンス強化を推進 特に「ライオン人権方針」や「ライオン贈収賄防止指針」を制定し、ガバナンスを強化	P58-60	推進中	贈収賄防止ガイドラインを設定することにより、実効性を担保

※3Voice of Customer(お客様の声)

ライオンのサステナビリティ  
2018年  
環境  
人権  
労働慣行  
公正な事業慣行  
消費者課題  
コミュニティへの参画  
組織統治